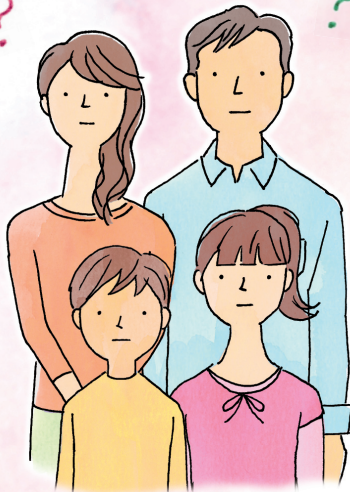


\\ いま聞いておきたい //

消費税

のこと!

平成26年4月1日から消費税は現行の5%から8%に。
そこで、皆さんの疑問にお答えします。



Q

なぜ、いま、消費税率を引き上げるのですか？
何のための引き上げですか？

A

世界に誇れる私たちの社会保障制度を守るためです。

社会保障を安定させ、厳しい財政を再建するために、財源の確保はもはや待ったなしというのが現状です。国民のみなさんに信頼される社会保障制度をこれからも持続可能なものとしてしっかりと次の世代に引き渡していくために、消費税率を引き上げることを決断しました。

そうなんだあ、
私たちの未来につながる
話だったのね。



Q

消費税は、本当に社会保障のためだけに使われるのですか？

A

はい。消費税が、社会保障ではなく他の予算や減税のために使われてしまうという心配はありません。

平成24年に成立した「税制抜本改革法」により、消費税は社会保障の財源のためだけにしか使わないことが法律で保証されました。

Q

いま消費税率を上げると、
消費が落ち込み、景気が悪化してしまうのでは？

A

消費税率の引き上げによる影響を緩和しながら、
経済の好循環を軌道にのせるために、
「好循環実現のための経済対策」を実施します。

この経済対策では、日本経済の競争力を強化するために1兆4,184億円の予算を投じるほか、復興・防災・安全対策(3兆1,274億円)も加速させます。また、女性や若者、高齢者や障害を持つ方々向けの施策(3,005億円)や低所得の方々に配慮した施策(6,493億円)もていねいに進めていきます。

ところで、
景気への影響はどうなんだろう。





消費税率を上げると、所得の低い人の生活がより苦しくなるのでは？



消費税は、社会保障のサービスとして国民に還元されることも含めて考えると、所得の低い人に手厚く返ってくる税です。

今回の消費税率の引き上げについては、所得の低い方々の負担軽減措置として、消費税率の引き上げに際し1人1万円の給付を行います。^{*}さらに、少し専門的になりますが、

- ①国民健康保険の保険料軽減措置の拡充
- ②介護保険料の軽減(一号保険料)
- ③高額療養費制度の自己負担限度額の見直し



といった負担軽減も予定しています。今後も、所得の低い方々が多く加入している国民健康保険について、財政基盤を安定化させるなどの改革を進めていきます。

^{*}補正予算で実施される「臨時福祉給付金(簡素な給付措置)」

給付対象者は市町村民税(均等割り)が課税されていない方で、1人に1万円(1年半分を1回の手続きで支給)を支給します。老齢基礎年金や障害基礎年金、遺族基礎年金受給者などには1人につき5000円を加算します。



社会保障を支えるための消費税率の引き上げ…若い人たちに申し訳ないような気もしますが？



社会保障制度は、世代を問わずメリットのある仕組みへと変わっていきます。

これまで、社会保障というと高齢者のためのサービスというイメージがありました。消費税も、高齢者のための年金・医療・介護に使われてきました。しかし、これからの社会保障制度について多くの議論がなされる中、すべての世代がよりメリットを実感できるよう、新たに少子化対策にも消費税が使われることになりました。例えば、出産後、職場に復帰したいのに子供を保育園に預けることができず困っている方が多くいらっしゃいます。そうした「待機児童」を1日も早く解消するために、保育所や保育士を増やし、平成26年度末までに約20万人分の保育の受け皿を確保することを目指して



います。この他に、

- ①地域の子育て支援(地域子育て支援拠点事業、一時預かり事業、ファミリー・サポート・センター事業、放課後児童クラブ等)を充実します。
- ②難病で苦しんでいる方々や、慢性疾患を抱えて治療が長期間にわたる子供への医療費助成について対象疾患を拡大します。

このように、若い世代もメリットを実感できるよう社会保障制度の改革が進められています。



日本の消費税や社会保障の現状は外国と比べてどうなのでしょう？



日本の税率は、先進国の中で最も低い水準です。

他の先進国の消費税(付加価値税)の税率は軒並み15%以上。スウェーデンやデンマークのように25%となっている国もあります。

一方で日本の社会保障の充実の度合いは、他の先進諸国とほぼ同じ水準になっています。つまり、社会福祉

の充実比べると国民の負担は低いといえるでしょう。しかし、先進国中でも特に高齢化が進んでいる日本は、今後ますます社会保障のための費用が増えていきます。だからこそ、いま消費税率の引き上げが必要なのです。

私たち日本の社会保障制度は、世界に誇る素晴らしい制度です。長寿国・日本が実現した背景にも、充実した社会保障制度があります。時代に合わせて負担と受益とのあり方を変えていくことで、この素晴らしい制度にさらに磨きをかけ、将来世代にきちんと残していきましょう。

